

■取組みの効果（定量的な数値）

※平均待機時間 = 当社到着車両の待機時間合計 ÷ 到着台数（52～56台/日）

■調査開始時

- ・ 2022年4月22日 平均待機時間 44.1分
最大待機時間 1時間53分
物量423トン
待機時間0の車両台数 10台/55台
- ・ 調査開始時のため、データが少なく評価が分かりにくい時期

■1年後

- ・ 2023年4月3日 平均待機時間 26.7分
最大待機時間 1時間30分
物量416トン
待機時間0の車両台数 17台/53台
2023年4月 月間の平均待機時間 21.9分
- ・ 全体的に待機時間が**30分**短縮、待機時間0の車両が増え、平均待機時間も1年前と比べ**40%**下がった。

■1年7か月後

- ・ 2023年11月2日 平均待機時間 13.9分
最大待機時間 45分
物量413トン
待機時間0の車両台数 **27台/54台**
2023年11月 月間の平均待機時間 **6.5分**
- ・ 最大待機時間が調査開始時より**40%**下がり、待機時間0の到着車両は、**半分を占める。**

■まとめ

- ・ 調査開始時は、物量が多いときだけでなく、慢性的に待機している状態であった。これは、路線車両が待機している状態が見えないため、現場作業員が物量に応じての動きであった。そのため、**見える化**して現場作業員と改善に取り組んだ。
- ・ 当社の到着物量は、1日に400トンを超える日が、年約10日であり、この10日のオペレーションを中心に短縮させ、物量が少ないときに同じ手法を適用することで、残りの平日224日も短縮させる行動で待機時間短縮に取り組んだ。